

「分譲ソーラー」の草分けが、またしても時代を切り拓く ソーラーシェアリングも視野に入れた 産業用太陽光発電の可能性

「分譲ソーラー」の草分けとして確固たる地位を築いた株式会社アドバンス。同社は、固定買取価格の低下や低圧分譲ソーラーの認定不可と、あたかも逆境に立たされているかのように思えるが、そんな心配などどこ吹く風。同社の渋谷社長のビジョンは、もつとはるか未来を見据えていた……。

取材・文ノムネカサミト

分譲ソーラーの1/3保有で スピーディーな対応を実現

個人でも借地権付き太陽光発電システムが購入・運用できる、いわゆる「分譲ソーラー」で、業界をリードしてきた株式会社アドバンス（代表取締役社長 渋谷君美義氏※1）。同社が手がける低圧分譲型ソーラーは、太陽光発電に適した屋根や土地を所有していなくても、FITを最大限に活用することで20年間安定した収益を得ることが可能で、さらにグリーン投資減税によって税制も優遇されるため、節税や相続税対策にもなるとして人気を呼び、需要に対して供給が追いつかないほどのヒットとなった。

同社が行う分譲ソーラーの特長のひとつに、大胆な保証システム（※2）が挙げられる。オーナーに提示される金額には20年間の保険やメンテナンス料金も含まれるため、その価格は他社と比べて高いと思われるが、しかしその数字は、しっかりとした根拠によって導き出されているもの。渋谷社長に話を伺った。「業者によっては、電力の買取が保障される20年間のうち、最初の10年間しか

保険をつけていないという場合も多いんです。その会社が潰れてしまった場合、残りの10年間はお客様側で保険やメンテナンスをしなければならなくなります。最初の提示価格が安くても、それではリスクが高すぎます。他にも電力会社との連携費用や、フェンスの取り付けなどがオプションだったりすることも

ありますが、弊社は最初に提示させていただく金額には、消費税はもとより、全部含まれています。それ以降の20年間、ピタ一文いたしません。驚いた事に同社は、損害が5000万円までの事故であれば、迅速さを追求するため、保険を使わず自社の持ち出しで対応する。そのような対応ができ

る秘密は、手がけるソーラー分譲地の1/3を自社で保有することにある。そこで得られる売電収入のほぼ100%をメンテナンスに当てることで、きめの細かい、スピーディーな対応を実現しているのである。

この発想、サービスはまさに唯一無二といえるだろう。

そんな同社に対して向かい風となりうるニュースが報じられた。経済産業省から示された新基準によって、低圧型分譲ソーラーの認定が不可（※3）となるという。しかし、渋谷社長は力強くこう語る。

「高圧だってチャンスはあります。1ha以下の土地であれば届け出だけの申請で済みます。低圧だとそこに7区画から8区画作ることができず、高圧ですと仕切りがないので低圧に換算して10区画から12区画相当を相当を設置することができます。だから土地の活用率はむしろ20%ほどアップするんです。1MWとか2MWとなるとハードルは高いですが、500kW未満なら事業規模的にもまだ参入しやすく、可能性はまだまだあるんです」。渋谷氏が語る通り、同社ではすでに、



※1

株式会社アドバンス
代表取締役社長

渋谷 君美義氏

1946年東京生まれ。日立製作所に入社後独立し、1971年に看板広告の企画・施工を手がける株式会社JSPを創業、現在まで無事故を続け、業界大手の企業に育て上げた。2012年アドバンスを設立。いち早く「分譲ソーラー」というビジネスモデルを開発・確立し、瞬く間に急成長を遂げる。

※2

大胆な保証システム

ソーラー分譲物件の1/3を自社保有することで、その売電金額をメンテナンス予算として活用。トラブルに際しても、あえて保険を使わずスピーディーに対応、これによって保険料アップのリスクも回避できるといふ。また、保証する発電金額の設定はあえて低目ながら、実際は常に提案金額の120%超。長期にわたるオーナーの安心感のために、考案されたシステムだ。

唯一無二の発想で、顧客の「安心」を守り続ける

ココが
違う!

専門業者も認める、高い耐久性のオリジナル架台が、安心を生む!

20年間安定して発電を続けるためには、強固な設置環境は必要不可欠。アドバンスは以前、屋外広告の企画・施工を手がけていたことから、風圧や積雪量などを計算し頑丈で壊れない架台の設置には一日の長がある。また、通常パネル傾斜5~10度のところ、約20度にすることで通路スペースを広くとり、架台も高く設置することで良好なメンテナンス環境も確保する。



水平・垂直ブレース(筋交い)を増やすことで、風圧荷重基準34m/sのところ60m/sにまで耐える強度で設計。さらにパネルを全てオリジナルの特殊金具で固定するため、風で飛ばされる心配もない。



積雪時



耐荷重は積雪2mに耐える設計となっているため、今年2月の記録的な積雪でも、崩れてしまうなどの事故は1件も発生せず。

通常時



通常の施工では、架台の地上高を120cmに設定するところ、寒冷地では雪対策として150cmに設定。雪の集積場所も予め確保している。

地方農政とタッグを組んで新たなシェアリングを提案

現在、アドバンスが注目するのは、問題を抱える広大な農地の活用法。そう、ソーラーシェアリングである。
「PPPの影響で、農業を続けることが困難になる農地は増えていくと予想しています。でも、発電事業と両立することで農業を続けることができる。実は今、広大な農地でのシェアリングのお手伝いをするお話が進んでいます。まず、

太陽光パネルを、高さ3m90cmのポリカーボネート製の屋根に設置。もちろん太陽光が作物に届くよう隙間はあけるんですが、さらに屋根(パネル部分)の下には作物の成長を助ける青色のLED(※4)を設置する。そして同じく屋根の下に散水設備も完備するんです。も

ちろんこれも、20年間の補償をさせていただきます。まだ具体的なことは言えませんが、すでに動き出しているプロジェクトですよ。(渋谷社長)。
アドバンスは、これまでも地方自治体とタッグを組んで、遊休地の有効活用に対する活動を行ってきたが、今度は全



く新しいソーラーシェアリングのシステムを構築して、地方の農業をサポートするというのである。
「作物に関しては、自治体や農家さんたちプロにお任せします。その農地独自のブランド品を開発するなどということもあるでしょう。でも、そういった作業にも時間がかかります。シェアリングであれば、当然土地代はお支払いしますから、そういった面でのリスクも減らすことができます。システムのメンテナンスに関しては、弊社でしっかりと行う。農家さんの競争力は、絶対に上がるはずですよ。(渋谷社長)。
同社がこれまで行ってきた、自治体と組んで行う土地活用は、後継者不足や耕作放棄地の解消ともなるソーラーシェアリングへと、地続きで発展を遂げている。ソーラー発電に関わる全ての人の利益となるアドバンスのソーラー発電事業。この「ワイン・ワイン」の関係こそが、今後の再生可能エネルギーの持続性の鍵となることは間違いない。

※4

作物の成長を助ける青色のLED

青い光は植物に花を多く作らせる働きがあるとされている。また発芽を促進したり、茎が必要以上に伸びてしまうのを防ぐとも言われ、LEDの光のみで栽培する「植物工場」では、光合成を促す赤色と組み合わせで使用されている。

※3

低圧分譲ソーラーの認定不可

2014年4月1日、経済産業省は、「意図的な安全規制等の回避」「事業者間の不公平性や社会的非効率性の発生」を防ぐために、ひとつの場所に設置される再生可能エネルギー発電設備を、複数の小規模設備に分割しようとする場合には、認定を受けることができないよう認定案件を追加した。

安心、安全の太陽光発電
株式会社 アドバンス

東京都中央区八重洲1-8-12
ヒューリック八重洲ビル2階
TEL:03-3517-2249 FAX:03-3517-2259
メールアドレス info@s-adv.jp
ホームページ http://www.s-adv.jp/